

事業完了報告書

調査研究期間等

調査研究期間	令和3年5月24日 ～ 令和4年3月3日
調査研究事項	《委託研究：夜間中学における教育活動充実に係る調査研究》 I. 教育課程に関すること IV. 教職員の配置・研修に関すること VI. その他夜間中学における教育活動充実に関すること
調査研究のねらい	<p>本学級には2021年2月1日現在46名の生徒が在籍している。戦争や差別、貧困・病弱・障害などで学齢期に教育を受ける機会を十分に保障されなかった人たちや、結婚などで主にアジア・南米から渡日した定住型の外国籍の人たちなどが学んでいる。</p> <p>また、2015年7月に既卒者の夜間中学入学の門戸が開かれ、2016年12月に「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保に関する法律」（以下、「教育機会確保法」）が施行され、本学級にも若干名ではあるが、家庭事情やいじめ等で学齢期に不登校になりそのまま中学校を形式的に卒業した人が、学び直しのために入学している。</p> <p>今後、本校でも他の夜間中学と同様、従来の層の生徒に代わって、こうした学び直しを希望する人たちの入学希望が増加していくと思われる。</p> <p>新渡日の外国籍生徒の場合、その背景として持っている文化、母語、価値観は、非常に多様である。そのため、日本事情の理解のための社会見学や体験学習の実施も求められる。さらに、学習カリキュラムに関しては、まず、日本語を使い自分の身の回りの社会にアクセスできるようになるための生活言語の習得から始まり、その後に各教科学習に進むための基礎的な学習言語の習得へと進めるといった、順序立てた教育課程が必要になる。</p> <p>また、学び直しを目的としている生徒の場合、置かれてきた家庭環境・経済環境、十分に学校へ通うことができなかった原因・理由が生徒によって異なっている。そのため、過去のネガティブな人生経験への配慮を十分にしながら、社会見学や体験学習の実施、将来の生き方を見据えた進路指導と教育相談が必要であり、学習目的の明確化、カリキュラムの工夫、個々の習熟度や学習方法など個々の生徒の特性に応じた対応が必要である。</p> <p>生徒の持っているこれらの多様な側面、それに基づく多様な学習ニーズに応える効果的な教育課程を編成していくためには、職員全体が夜間中学の教員としてのスキルアップを図り、学習シラバスとカリキュラムの改善に取り組んでいかなければならない。</p>

また、生徒の学校生活に目を向けると、多様な背景・文化・価値観・母語を持っている生徒たちであることから、お互いの意思疎通や共感・理解に課題が見られる。この問題の解決のためには、生徒どうしが積極的に関わりを持ち、互いのちがいとその背景を十分に認識しつつ、ともに学ぶ仲間として結びついていけるような仕組みを教育課程の中で工夫することも大切なことである。

そのため、今年度の「夜間中学の設置促進・充実事業」における委託研究「夜間中学における教育活動充実に係る調査研究」に取り組む本校のねらいを、次の3点とする。

① 教員の日本語指導能力の向上についての研究

3年にわたり、成人外国人に対する日本語指導の専門家を招聘し、日本語指導についての職員研修を実施した。職員一人ひとりの日本語指導に対する意識を高め、そのスキルアップに努めてきたが、さらに継続的な研修が必要であるため、今年度も日本語指導についての職員研修を行ないたい。そして、職員研修で知識や技術を高め、生徒のニーズに応える自主教材編成や授業方法の改善に反映させたい。

② 社会見学や体験学習としての校外学習実施についての研究

本校には多様な背景を持つ生徒が集まっていることから、生徒の多様性に配慮した上で、効果的に日本社会事情を理解してもらえるような社会見学や体験学習を実施したい。また、経済的負担を考慮する必要がある生徒も在籍しているため、経済的負担を考慮した校外学習のあり方を研究したい。

また、上記①②については参考事例の情報収集をするために、多様な既卒者を受け入れている公立夜間中学や自主夜間中学、外国籍生徒に対する日本語指導を実践している公立夜間中学や自主夜間中学への視察を行いたい。また、福島県で開催予定の「8.21全都道府県に夜間中学の開設を!福島研修交流会」及び大阪府で開催予定の「全国夜間中学校研究大会」へ本校教職員を派遣して、各地の夜間中学教職員や指導者、夜間中学生徒・卒業者・自主夜間中学学習者との情報交換・意見交換を行ない、本校の具体的な取組に活かしていきたい。

③ 多文化共生に関わる取り組みの充実についての研究

教育課程で学校行事に位置づけている文化祭の開催を活用し、多様なちがいを持つ生徒に「互いに関わり、意見を交わし、一緒に作業を行い、一つのを完成させる」プロセスを体験させ、生徒どうしの理解・共感・結びつきを深めていきたい。また、そのプロセスの中で育まれる夜間中学における多文

	<p>化共生の姿を地域の人々にも発信し、地域における多文化共生を考える機会としたい。そのため、多文化共生という視点で本校文化祭を充実・改善していくための研究を行いたい。</p>
<p>調査研究の成果</p>	<p>今年度も新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受け、9月2日から9月24日および1月24日から3月11日（予定）にかけて分散登校を余儀なくされた。また、通常授業を再開後も、時間割の変更・縮小などに迫られ、事業計画書に記載したとおりには研修等を行うことが難しかったが、工夫をして可能な限りの研修等を行った。</p> <p>6月、検討会議を行った。生徒の課題に応じた教育課程を行うにあたり、現状どのような課題があるかを担当教員から報告を受け、情報を共有した。また、新型コロナウイルス感染症拡大の状況を見守りながら、教育課程充実のために必要な日本語指導についての研修の具体的な日程を検討した。</p> <p>7月、検討会議を行った。多文化共生という視点で本校文化祭を充実・改善していくために文化祭をどのように取り組むかを検討した。また、効果的に日本社会事情を理解することのできる社会見学や体験学習について、経済的負担に考慮しつつ具体的に計画を検討した。</p> <p>8月、多様な既卒者や日本語学習者を受け入れている公立夜中や自主夜中の視察を計画していたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため受け入れが困難と判断し、12月への延期を決定した。また、「8.21全都道府県に夜間中学の開設を！福島研修交流会」に参加研修することを計画していたが、新型コロナウイルス感染症拡大のために交流会の開催自体が中止となったため、計画も中止せざるをえなくなった。</p> <p>9月、新型コロナウイルス感染症拡大のため、計画していた日本語指導の基礎的理解をテーマとした校内職員研修を11月に延期した。</p> <p>10月、新型コロナウイルス感染症拡大のため、計画していた文化祭を12月に延期した。</p> <p>11月、新型コロナウイルス感染症拡大のため、計画していた校外学習(1泊)を1月に延期した。</p> <p>11月、成人を対象とした日本語指導に精通している団体から講師を招聘し、日本語指導の基礎的理解と具体的方法をテーマとした校内職員研修を行った。9月から延期した校内職員研修と合わせて、11月と12月に4回にわたって実施した。校内配付文書や生徒への連絡、授業全般に「やさしい日本語」を使う必要性を共有でき、職員一人ひとりの日本語指導に対する意識を高めることができた。自主教材編成や授業方法の改善にも役立てることができた。特に、夜間中学に初めて勤務することとなった職員にとっては、学習指導や生活相談等、生徒との接し方に活かす事のできる有意義な研修となった。</p>

11月、全国夜間中学校研究大会に参加し研修した。新型コロナウイルス感染症拡大のためZoomによるオンラインでの開催となり、本校からのリモート参加となった。報告を聞くことが主となって双方向での討議にはならなかったが、全国の夜間中学や生徒の状況について理解を深めることができた。

12月、10月から延期した文化祭を開催した。新型コロナウイルス感染症拡大のため、会場を本校校舎から天理駅前広場コフンへ移し、展示のみでの開催とした。展示する共同作品の制作を通じて、多様なちがいを持つ生徒に「互いに関わり、意見を交わし、分散しながらも共同作業を行い、一つのを完成させる」プロセスを体験させ、生徒どうしの理解・共感・結びつきを深めることができた。また、そのプロセスの中で育まれる夜間中学における多文化共生の姿を地域の人々にも発信し、地域における多文化共生を考える機会とすることもできた。今後も、多文化共生という視点で、文化祭を充実し、地域へ発信していきたい。

12月、8月から延期した多様な既卒者や日本語学習者を受け入れている公立夜中や自主夜中の視察として、神戸市立丸山中学校西野分校と岡山自主夜間中学を訪れた。

1月、校内職員研修を行った。日本語指導に関する研修、全国夜間中学校研究大会に参加しての研修、多様な既卒者や日本語学習者を受け入れている公立夜中や自主夜中の視察等、各研修で得られたことを出し合い共有化した。そして、日本語指導が必要な生徒に対して、どのような教育課程に基づき授業を実践・展開するか、自主教材の作成・編成、教材活用の方法や授業の改善すべき点についても協議し、意見を出し合った。

1月、11月から延期した校外学習(1泊)を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大のため、中止せざるをえなくなった。

2月、検討会議を行い、調査研究のねらい①②③に照らして、計画・実施した研修等の評価を行った。

3月、総括会議を行った。今年度も、新型コロナウイルス感染症拡大の影響のため、計画していた研修等の全てを行うことはできなかった。しかし、実施できた研修等によって、教育効果が高まり、本校総体としての教育力も向上したと評価できた。計画していたが、新型コロナウイルス感染症拡大のために実施できなかった研修等も含め、今後もこうした研修を継続して行い、教員個々の指導力向上を図り、学校運営や教育活動に活かしていく必要を確認した。